

# SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

代 表：松本敏之、大倉一郎  
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙  
 〒234-0054 横浜市港南区港南 7-8-29  
 Tel045-833-5323 Fax045-833-6616  
 郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

## 実り豊かな秋を過ごして

小井沼眞樹子

新年おめでとうございます。

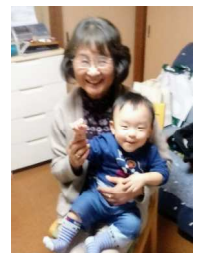
この一年も、皆さんのお祈りとご支援を頂きながら、ブラジル宣教の道を歩み続けていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

会報8号を年明けにお届けすることになりました。昨秋9月から11月にかけての日本滞在が長引いたためです。その理由はもちろん、ローマ教皇フランシスコが11月23-26日に訪日されたからで、諸集会の模様をつぶさにYouTubeの動画で見ました。また、運よく東京ドームでの教皇ミサに参加することができ、パパの実像は豆粒のように小さかったのですが、5万人の参会者と心燃やされる祝祭を共有でき、感謝でした。

一時帰国中は、右表のようにいくつもの教会で説教や、ブラジル宣教のお話をする機会をいただき、2つの幼稚園でお話しました。

また、JRパス（10年以上の海外在住者が購入可）を使って、あちこちで友人たちと再会し、楽しい交わりの時を過ごしました。

- 9月22日 辻堂教会 礼拝出席
- 9月29日 横浜港南台教会 説教と宣教報告
- 10月6日 田園江田教会 説教と宣教報告
- 10月13日 茅ヶ崎平和教会 礼拝出席
- 10月20日 鹿児島加治屋町教会説教と宣教報告
- 10月23日 荒尾教会付属めぐみ幼稚園でお話
- 10月27日 高知教会 特別伝道礼拝に参加
- 10月28日 ルーテル岐阜教会と大垣教会を訪問
- 11月3日 横浜港南台教会永眠者記念と墓前礼拝出席
- 11月6日 認定こども園・母の会 幼児祝福式  
保護者へブラジルの子どもたちについて紹介  
教職員へ小礼拝とブラジル宣教紹介
- 11月7日 辻堂教会祈祷会にて宣教報告
- 11月10日 新生釜石教会 宣教報告  
釜石カトリック教会 ミサに参加
- 11月13日 真駒内教会祈祷会にて宣教報告
- 11月17日 なか伝道所 使信
- 11月24日 横浜港南台教会 礼拝出席
- 11月25日 東京ドーム 教皇ミサに参加



写真上段：①田園江田教会にて。②鹿児島加治屋町教会の松本牧師と。③荒尾教会（熊本県）の佐藤牧師と。④長崎市西坂26聖人記念公園にて。  
 写真下段：①パパの実物像と。②神戸にて野田牧師夫妻と。③釜石カリタスにて堀江神父と。④横浜港南台教会にて関田牧師と。⑤孫（1歳）と。

## ☆ブラジル宣教に導いた発端の物語

ブラジル宣教20年を過ごしてきて、忘れられない、否、忘れてはいけないひとつの出会いの物語を説教の中で紹介しました。

1986年に初めて日本から出て、ブラジルで生活し始めたある日、それは小雨の降る肌寒い夕暮れ時でした。私は日系の貸しビデオ店の中にいて、そこにフラフラ入ってきたブラジル人女性と出会ったのです。濡れた薄い服は体にピタと張り付いてしずくが垂れ、唇は寒さで紫色になりガチガチ震えていました。「まあ、なんて可哀そうに！」と思いました。そして次の瞬間、私の頭の中でビデオの早送りのように自分の取るべき行動が駆け巡りました。彼女を車に乗せて連れ帰り、温かいシャワーを浴びさせ、乾いた洋服を着せて、何か温かい食べ物を食べさせたいと…。

ところが、現実の私は全く体が動かず、茫然とそこに立ちすくむばかりでした。慌てて出てきた店員に追い払われて、あっという間に彼女の姿は私の目の前から消え去りました。わずか1、2分の出来事だったのでしょうか。

けれども、この出会いが、その後の私にもたらした意味合いはとても大きなものでした。苦しむ人を目の前にして何もできなかった自分を恥じて泣きました。思い出すたびに涙があふれ…。

良いサマリア人の物語のテキスト（ルカ福音書10章29-37節）で、サマリア人が傷つき倒れている旅人を見て憐れに思い（33節）、近づいて介抱します（34節）。けれど、私の体験は彼女を可哀そうに思っても近づけなかったのです。私の発見は33節と34節の間に深い断絶があるという自分の現実でした。

その後、路上にいる貧しい人の横を通り過ぎて教会に通っている自分が、物語のレビ人や祭司の姿に見え、最後には、先進国の一員として、第三世界の誰かを半殺しにしている強盗の一員ではないかと思ひ至り、本当に困惑しました。

「お前は本当にキリスト信者なのか？」この問いが心に突き刺さって離れない日々が続く…。

約2年の月日が過ぎて、やがて、ひとつの気づきに至ります。それは、日本人として生を受けたことによるあふれるばかりの恵みと、同時に、イエスの十字架の赦しによって、個人的な罪だけでなく世界の構造的罪からも解放されていたのだと、贖罪の意味も全く新しいものとして受け取り

なおされたのです。福音の再発見であり、ブラジルの貧しい人々の姿を通してもたらされた第2の回心でした。「誰がこの人の隣人になったと思うか」「行って、あなたも同じようにしなさい」というイエスの言葉は、「ブラジルに行って苦しんでいる人々に仕えなさい」という招きの言葉として私には聞こえ、日本とブラジルをつなぐ宣教師になろうという決意へと導かれたのです。

個人的信仰深さでは、世界の貧富の差の問題を解決することは到底できません。多くの人々とのグローバルな宣教協力が不可欠なのだと思います。

そして20年の歳月、ブラジル宣教師として歩み続けるなかで、このひとりの惨めさの極みを生きていた女性のいのちは、私にとってかけがえのない価値を持っていたのです。その関係性に、前号の会報でも触れた「いのちの不思議」をもう一度見えています。

## ☆フランシスコ教皇が語った言葉から

短い滞在日数にもかかわらず、教皇は実にたくさんの人々と出会い、触れ合い、意味深い言葉を語り、私たちを励まし勇気づけてくださいました。長崎と広島での、平和と核保有に関する重要なメッセージについては、小さな者が言及するまでもありませんが、私にとって、特に印象深く受け止めた言葉をいくつか拾い挙げてみます。



### 「誰のために生きるのか」

11月24日の青年との集いで、いじめや差別で傷ついた青年に「世界はあなたを必要としている」と告げ、「何のために生きるのか」と問うのではなく「誰のために生きるのか」問うことが大切ですよと言われました。自分の価値や良さに気づくためには、自分の殻から出て最も困窮する人のもとへと出向くことを勧めます。これは単なる「善い行い」の勧めではありません。「助けて



あげなければならない人」と思われている人々のいのちと関わるなかで、癒しの力が働くのです。助ける側も助けられる側も、相互に尊厳あるいのちが回復するのです。言い換えれば、最も小さな者の中にイエスが隠れているということを暗示しているのだと思います。

### 「いのちを分かち合う」

「神はあなたの中に、たくさんの性質、好み、たまもの、カリスマを置かれましたが、それらはあなたのためというよりも、他者のためなのです。いのちを生きるだけではなくて、いのちを分かち合うのです。そして、これこそが、あなたがたがこの世界に差し出すことのできる、すばらしいものなのです」。



### 「分かち合い、祝い合い、交わるわたしたち、これしかありません」

1月25日の東京ドームでのミサではマタイ福音書6章24-34節のテキストで語られました。今日の私たちの生活は、息も切れるほど熱狂的に生産性と消費を追い求めることに、自分の関心や全エネルギーを注ぐことによって、不安と競争心という悪循環に陥っていると指摘。その結果、大切なことに対して徐々に私たちを無関心、無感覚にし、心を表面的ではかないことがらへと向かうよう押しやっている。己の利益や利潤のみを追い求める利己主義は、「巧妙にわたしたちを不幸にし、奴隷にします。そのうえ、真に調和のある人間的な社会の発展をはばむのです。孤立し、閉ざされ、息ができずにいるわたしに抗しうるものは、分かち合い、祝い合い、交わるわたしたち、これしかありません」。

交わりを大切に生きてきた小さな宣教師は、この言葉に本当に力づけられました。

「傷のいやしと、和解とゆるしの道を、つねに差し出す準備のある野戦病院となること」

「キリスト者の共同体として、わたしたちは、すべてのいのちを守り、あかしするよう招かれています。それは、実際に目前にあるいのちを、抱擁し、受け入れる態度です。いのちの福音を告げるということは、共同体としてわたしたちを駆り立て、わたしたちに強く求めます。それは、傷のいやしと、和解とゆるしの道を、つねに差し出す準備のある、野戦病院となることです」。

これは就任当初から、フランシスコ教皇の教会観のキーワードとして、「出かけて行く教会」と対にして語られてきた言葉です。

人々を教会の中に呼び込もうとする内向きの姿勢ではなく、教会の垣根を越えて街路に出て行き、そこで傷つき倒れ、助けを必要としている人に出会って連れ帰る野戦病院のようであれということです。フランシスコ教皇からのこのような大きなチャレンジを受け、いま、時代の変化に即した教会の在り方が、根本的に問われていると認識すべきなのでしょう。

### ☆祝された会堂献金

昨年6月からヴァレリオ・シルヴァ教会の新会堂建築は資金不足でストップしていました。今回一時帰国する前に、協力を呼び掛ける動画を作成して、[YouTube に配信し\\*](#)、ブラジルのすべての合同長老教会と、関わりのあるアメリカとドイツの教会にも個別に協力をお願いしました。現時点での応答はまだありませんが、きっとそのうちに献金が届くのではないかと待っています。

日本においては、私が身を運んで6回の宣教報告、または宣教紹介を実施しました。その結果、行く先々で協力的な温かい空気を感じられ、それが献金に反映されたことは本当に感謝でした。それに加えて、思いがけず大きな贈り物が、文字通り天から降ってきたのです。昨年1月に召天した姉からの献金でした。びっくり仰天とはこのことです。天国の姉が、困窮しているブラジルの人々のために喜んで捧げてくれたのだと思います。

**注\*** NOVO TEMPLO DA IGREJA PRESBITERIANA UNIDA REV. VALÉRIO SILVA で検索。英語の字幕付きです。

材料費の値上がりなどもあるため、残る建築費の見積もりを計算してもらっているところです。また建築後も様々な備品の購入や、旧会堂のリフォーム費用もありますので、引き続き、会堂献金のご協力をよろしくお願いいたします。

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告 2019. 6. 1～2019. 12. 31

収 入

項 目	金 額
会費・特別献金	
	省略
小 計	
前月より繰越	
合 計	

支 出

項 目	金 額
支援金	
事務費	省略
振込手数料	
会堂使用料	
集会費	
小 計	
次月へ繰越(通常)	
合 計	

収 入

項 目	金 額
会堂建築献金	
	省略
小 計	
前月繰越金	
合 計	

支 出

項 目	金 額
支援金	
振込手数料	省略
小 計	
次月へ繰越	
合 計	

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)

省略 (85名)

会堂建築献金者名 (敬称略・順不同)

省略 (54名)